

保健体育科学習指導案

令和5年7月5日(水) 第3校時 体育館

第2学年1・2・3組 計108名

指導者 眞貝 依代 (T1)

神宮司 大 (T2)

生田目 宗典 (T3)

山下 広夢 (T4)

1 単元名 「傷害の防止」(応急手当の意義と実際)

2 単元について

私たちは日常生活の事故や自然災害に巻き込まれて、けがをしたり命を落としたりする危険性がある。傷害の発生要因には様々な要因があり、それらに対する適切な対策や危険を予測することができれば、事故や災害を防いだり、被害を最小限に抑えたりすることができる。また、応急手当は傷害の悪化を防止できることや命を救ったりすることができる。本単元は実際に傷病者を目の前にした時に、適切な判断の基に命を救う応急手当ができるように緊急時の対処の仕方や実践力を高め、傷害の防止についての理解を深める単元である。

救急隊が到着するまでの間にAEDを使用することで、救命率は2倍以上高くなる。そのため、緊急時にはAEDの使用を啓発されており、誰もがAEDの扱いができるようにすることは必要である。本単元ではAEDの使用を含む心肺蘇生法実習を行い、緊急時の対処の仕方や胸骨圧迫の行い方、AEDの扱い方についての基本的な知識・技能を身に付けられるよう計画した。また、身近で人が傷害を負った場合の適切な対処法を考えることも重要と考え、学校内の様々な場面で傷害を負う事案が発生した場合の対処法について、生徒に考えさせ、生徒間で共有し実践に繋がられるよう計画した。

3 生徒の実態

全体的に素直で活発な生徒が多く、男女関係なく仲間と励まし合いながら協力して活動することができる一方、課題解決に向けて自ら考えて行動することが苦手な生徒も多い。

小学校では心肺蘇生法トレーニングキット「あっぱくん」を使用し、中学1年次には心肺蘇生法訓練用人形を使用した心肺蘇生法について学んでいる。

4 教師の指導観

「傷害の防止」では、けがの原因やけがの防ぎ方について理解を深めるとともに、人がけがをしたり倒れていたりした場合の適切な対処法や応急手当の方法について学ばせたい。さいたま市では、「中学校第1学年段階で、すべての生徒がAEDの使用を含む心肺蘇生法を行うことができる」という目指す生徒像の元、小学校段階から系統的・計画的に、発達の段階に応じた「心肺蘇生法」を実施しているが、2年時においてさらに繰り返し学習することで心肺蘇生法についての知識と技能の定着を図りたい。そして、実際に傷病者を発見した場合には勇気を持って学んだことを活かし、実践できる態度を育てたい。

また、スライドや学習カードの工夫、グループ内での話し合いやアドバイスをし合う時間を確保し、生徒が仲間と協力しながら、自ら考え主体的に学ぶことができる授業を展開していく。

5 単元の目標

- (1) 応急手当の必要性やAEDの使用を含む心肺蘇生法についての基礎的な事項を理解するとともに、実践を通して正しい対応ができるようにする。 **【知識・技能】**
- (2) 状況に応じて、適切な対処法を考え、正しい行動ができるようにする。 **【思考・判断・表現】**

- (3) 応急手当の必要性や AED の使用を含む心肺蘇生法の意義を理解し、自分たちの生活の中で実践しようとする態度を育てる。 【主観的に学習に取り組む態度】

6 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元 評価 規準	① 応急手当の方法と AED の使用を含む心肺蘇生法について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。 ② 胸骨圧迫の仕方や AED の使用法などを、実習を通して身に付けている。	① 応急手当について、習得した知識や技能を傷害の状態や、状況に応じて活用し、適切な対応方法を考えることができている。 ② 場面に応じた適切な応急手当の方法について、学習したことを元に、自分の意見を他者に伝えることができている。	① 応急手当の意義と AED の使用を含む心肺蘇生法について関心を持ち、課題解決に向けて学習活動に意欲的に取り組もうとしている。

7 単元の計画 本時は○印

時間	ねらい・学習活動	知・技	思・判・表	態度	評価方法
1	○応急手当の意義を知るとともに、胸骨圧迫や AED の使用などの心肺蘇生法ができるようにする。 1 心肺停止に陥った人への応急手当の意義を説明する。 2 応急手当の手順を説明する。 (救急車が必要かどうかの判断、緊急事態時の対応) 3 訓練用人形を用いて胸骨圧迫の実習を行い、正しい胸骨圧迫ができるようにする。	①		①	・活動の様子の観察
2	○AED の使用を含む心肺蘇生法の実習に意欲的に取り組み、実践に生かせるようにする。 ○日常生活における 3 つの場面で倒れている人を発見した時の対処法について、様々な視点から考えられるようにする。 1 スライドを見ながら心肺蘇生法の手順を確認する。 2 学級の班ごとに AED を用いた心肺蘇生法の実習を行う。 3 日常生活における 3 つの場面 (A・B・C) で傷病者が発生した場合の対処法について、学級の班ごとに考える。(3 つの場面について 2 班ずつ割り振る) 4 一班で 2 台の TPC を使用し、Teams 内のエクセルシートで共同編集をする。	②			活動の様子の観察 ・ICT 機器 ・ワークシート
3	○日常生活における 3 つの場面で倒れている人を発見した時の対処法について、様々な視点から考えられるようにする。 1 前回からの続きで、各クラス 6 班に分か				・活動の様子の観察 ・ICT 機器

	<p>れ、班ごとに傷病者発生時の対応法を考える。</p> <p>2 Teams 内のエクセルシートに、考えた対応法をまとめる。</p> <p>3 発表用の原稿を考える。</p>		②		
④	<p>○日常生活における3つの場面で倒れている人を発見した時の対処法について、各班で考えたことを、実践を交えて発表し、他の班と考えを共有した上でよりよい対応法を考える。</p> <p>1 各班で考えた内容を、同じ場面について考えた班同士で発表する。</p> <p>2 発表を聞いて、考えを共有し、班ごとによりよい対応法を考える。</p>		①		<ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子の観察 ・ICT 機器 ・ワークシート

8 本時の学習と指導（4 / 4時）

(1) ねらい

応急手当について、習得した知識や技能を傷害の状態や、状況に応じて活用し、適切な対応方法を考えることができています。【思考・判断・表現】

(2) 資料および準備するもの

TPC（各班2台）、心肺蘇生法訓練用人形（6体）、スクリーン、パソコン、プロジェクター、マイク、ワークシート

(3) 展開

展開	学習内容・活動	指導上の留意点（○指導 ◆評価規準）
導入 5分	<p>※ブリーフィング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TPC は挨拶の前にログインする。 <p>1 出欠確認、健康観察</p> <p>2 集合、整列、挨拶</p> <p>3 前時の振り返り</p> <p>4 本時のねらいと課題の確認</p>	<p>○素早く準備をさせる。（各班の場所に訓練用人形を配置する。TPC にログインさせる。）</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>○T2：出欠席、見学者、忘れ物を確認する。</p> <p>○T1：スライドを見ながら、応急手当の意義などこれまでの学習内容を振り返る。</p> <p>○T2・T2・T3：生徒が話に集中できるように T1 をサポートする。</p> <p>○T1：本時のねらいと授業の流れを説明する。</p>
	<p>《ねらい》 応急手当について、習得した知識や技能を傷害の状態や、状況に応じて活用し、適切な対応方法を考えることができています。</p>	

展
開
35
分

5. 発表の準備
・各班の班長が、前回 Teams 内に保存したエクセルファイル（フローチャート）を開く。班長のパソコンで上手くファイルが開けない時は、もう一台の班員が持ってきている TPC で開く。

・自分の役割を確認する。

6. 日常生活における3つの場面で倒れている人を発見した時の、対応方法について、各班で考えたことを発表する。

【じ・し・や・く】【TPC】
【防災】

【発表の手順】

・1班～6班の各発表場所に分かれる。（1組の1班と2組の1班と3組の1班が同じ場所に集まる）

・1組から順に、発表する。
（他のクラスに自分たちの班のフローチャートを見てもらいながら）

①発表（3分間）

②ワークシートの記入（1分間）

③入れ替え（1分）

①発表（3分間）

・
・

※①～③を繰り返す。（計15分）

7. 各クラス、班ごとに集まり、他クラスの発表を聞き、分かったことや考えたことを共有し、自分たちで考えた対応方法（フローチャート）を改善する。

【じ・し・や・く】【TPC】

8. 他クラスの発表を聞いた上で改善した、傷病者発見時の対応方法を、各クラスで指名された一班のみ（計三つの班）、発表する。

○**T1**：前回保存したファイルを開くように指示をする。
○**T2・T3**：ファイルを開けない生徒などの補助をする。
○**T4**：班ごとの発表場所を確認する。（訓練用人形が正しく置かれているかなど）

○**T1**：発表時の役割を確認するよう指示をする。

○**T2・T3**：ワークシートを配布する。
○**T1**：発表の手順と、発表の際の注意点を説明する。
○**T4**：発表の時間をタイマーで掲示する。
○**T2・T3・T4**：生徒が話集中できるように T1 をサポートする。

○**T1**：各班の発表場所に移動するよう指示をする。
○**T2・T3・T4**：素早く移動するように声掛けをする。発表する班以外は座るように声掛けをする。

○**T1**：発表を正しい姿勢で聞くことができるようにする。
○**T1**：発表を聞いたクラスは、分かったことや考えたこと、自分の班との違い等をワークシートに記入できるようにする。
○**T2・T3・T4**：班の入れ替えが素早く行われるようにする。

○**T1・T2・T3・T4**：積極的に意見を伝えている生徒や、話し合いが活発に行われている班を称賛する。意見を伝えることが難しい生徒や、話し合いができていない班に対しては助言をし、自分たちでよりよい対応方法を考えられるようにする。

◆応急手当について、習得した知識や技能を傷害の状態や、状況に応じて活用し、適切な対応方法を考えることができる。
【思考・判断・表現】

○**T1**：各クラス一班ずつ、発表する班を指名する。（実践は交えず、エクセルシートのみ見せながら発表する。）
○**T2**：前のスクリーンに発表する班のエクセルファイル（フローチャート）を映し出す。
○**T3・T4**：発表を正しい姿勢で聞くことができるようにする。

<p>ま と め 10 分</p>	<p>9. 本時のまとめと振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習した内容と、本時の発表を終えて考えたことや感じたことをワークシートに記入する。 ・学んだことや考えたことを発表する。 ・ワークシートを回収する <p>10. 挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ T1 : 自分の振り返りをワークシートに記入させる。 ○ T2・T3・T4 : 自分自身で、実践や発表を通して考えたことを振り返ることができるようにする。 ○ T2・T3・T4 : 発表を正しい姿勢で聞くことができるようにする。 ○ T1 : 生徒から出た感想を基にまとめ、自分ごととして生徒が捉え、学んだことを振り返れるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・傷病者に対して迅速に応急手当を行うことは非常に重要であること。 ・実際に現場に遭遇した場合は学んだことを生かし、勇気を持って自分にできることを行うこと。 ・助からない命もあることを伝えとともに、できる限りの応急手当を行うことの重要性を強調して確認する。 ○ ブリーフィング ※教師間の事後の打ち合わせ
-----------------------------------	--	---